

令和7年度 シラバス

愛媛県宇和島高等学校津島分校

教科	公民	科目	公共	単位数	2	学年	2年	類型	ビジネスコース
教科書	第一学習社 高等学校新公共			副教材	愛媛県高等学校教育研究会公民部門編 2025 公共ワークブック				

学期	月	単元名	指導項目、内容	重視する評価の観点			学習のねらい・学習の目標・評価の観点			
				知	思	主				
1 学期	4	第1編 公共の扉	第1章 公共的な空間をつくる私たち	社会に生きる私たち 個人の尊厳と自主・自律	○		◎	学習のねらい 一学期は、社会に参画する自立した主体とは何か考察し、地域社会などの様々な集団の一員として生きていく中で国家・社会などの公共的な空間を作る存在となることを理解します。また、選択・判断の手掛かりとなる考え方を活用し、環境保護や生命倫理など実社会の問題を考えます。 二学期は、古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、公共的な空間における基本的原理を理解します。また、人権保障のあゆみや世界の政治体制、日本国憲法などを通して、公共的な空間における基本的原理が、現代社会でどのような形で生かされているかを理解します。 三学期は、公正で自由な経済活動を通して、市場が効率的な資源配分を実現できるしくみを理解します。		
				多様性と共通性 伝統文化とのかかわり			◎		○	
				自律した主体をめざして		○			◎	
		第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方	人間と社会のあり方についての見方・考え方 実社会の例から考える～環境保護	○	◎					
	5			実社会の例から考える～生命倫理	◎		○		二学期は、古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、公共的な空間における基本的原理を理解します。また、人権保障のあゆみや世界の政治体制、日本国憲法などを通して、公共的な空間における基本的原理が、現代社会でどのような形で生かされているかを理解します。 三学期は、公正で自由な経済活動を通して、市場が効率的な資源配分を実現できるしくみを理解します。	
			中間考査	◎	◎					
		第3章 公共的な空間における基本的原理	人間の尊厳と平等、個人の尊重 民主主義と法の支配、自由・権利と責任・義務	○	◎					
	6	第2編 自律した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち	第1章 法的な主体となる私たち	日本国憲法に生きる基本的原理	◎	○			三学期は、公正で自由な経済活動を通して、市場が効率的な資源配分を実現できるしくみを理解します。	
				私たちと法 法と基本的人権			◎			○
				自由に生きる権利と法・規範 平等に生きる権利と法・規範	◎					○
			期末考査	◎	◎					
	7			安全で豊かに生きる権利と法・規範 法をよりよいものにするための権利			◎	○	学習の目標 広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深め、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解すると共に、それらに関する諸課題について主体的に考察し、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てます。 持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、現代の諸課題を探究し生涯学習する態度を養います。	
				様々な契約と法 消費者の権利と責任			○	◎		
				裁判所と司法 国民の司法参加	◎			○		
8										
2 学期	9	第2章 政治的な主体となる私たち	私たちと選挙 選挙の現状と課題	◎			○	二学期は、古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、公共的な空間における基本的原理を理解します。また、人権保障のあゆみや世界の政治体制、日本国憲法などを通して、公共的な空間における基本的原理が、現代社会でどのような形で生かされているかを理解します。 三学期は、公正で自由な経済活動を通して、市場が効率的な資源配分を実現できるしくみを理解します。		
			世論の形成と政治参加 国会と立法		○	◎				
			内閣と行政 地方自治と住民福祉		○		◎			
			国家と国際法 国境と領土問題			◎	○			
	10		中間考査	◎	◎		評価の観点 知識・技能 学習した内容を理解し、知識を身に付けているか。小テスト・定期テストの知識・理解に関する設問ができるか。地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命倫理、情報、国際社会の課題に関して、これまで学んだ内容や課題を解決するための知識を理解しているか。			
				平和主義と安全保障		○				◎
				日本の安全保障体制の変容				○		◎
			今日の国際社会 人種・民族問題と地域紛争			◎		○		
	11	第3章 経済的な主体となる私たち	私たちと経済		○	◎		思考・判断・表現 社会事象を多面的・多角的に捉え、他の事象と比較・検討し関連を考察して、それをノート・学習プリント、発表資料、レポートなどに記述できるか。地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見いだしているか。		
			労働環境と権利 日本経済のこれまでとこれから		○		◎			
			技術革新の進展	◎		○				
			期末考査	◎	◎					
12		日本の農林水産業 市場経済と経済運営		◎		○	主体的に学習に取り組む態度 政治や経済に興味や関心を持ち、自ら課題を発見したり自ら課題と関わろうとすることができるか。地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命倫理、情報、国際社会の課題に関する現代の諸課題を、主体的に解決しようとしているか。			
		市場のしくみ 経済発展と環境保全			◎	○				
		国民所得と私たちの生活			◎	○				
3 学期	1		経済成長と国民の福祉			○	◎	政治や経済に興味や関心を持ち、自ら課題を発見したり自ら課題と関わろうとすることができるか。地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命倫理、情報、国際社会の課題に関する現代の諸課題を、主体的に解決しようとしているか。		
			金融の意義と役割 金融のいま		◎		○			
			財政のしくみと租税 日本の財政の課題		○		◎			
			社会保障と国民福祉 これからの社会保障		◎		○			
	2		国際分業と貿易 国際社会の収支と国際経済体制			◎	○	備考 学年末考査		
			外国為替相場の動き グローバル化する経済		○		◎			
			地域的経済統合 国際社会における貧困や格差		◎		○			
	3	第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	排出権取引を考える～地球環境問題			◎	○			
ゲノム編集を考える～生命倫理				○		◎				
フェアトレードを考える～国際社会の課題					◎	○				

※評価の観点 知：知識・技能 思：思考・判断・表現 主：主体的に学習に取り組む態度

◆学習方法のポイント

- 公共を通じて身に付けてほしいことは、以下の三つです。
 - ・18歳からの社会参画に向けた意識を高めること。
 - ・身近な題材から社会への理解を深めること。
 - ・課題と向き合い解決する力を育むこと。
- 現代社会の諸課題を理解した上で、どのように社会に関わるか、どのような社会をつくっていくかという視点で課題を考察する科目です。
- 小・中学校社会科や地理歴史科などで育んだ資質・能力を用いるとともに、現実社会の諸課題の解決に向け自己と社会の関わりを踏まえ、社会に参画する主体として自立することや、他者と協働してよりよい社会を形成することなどについて考察していきましょう。
- 予習・復習を必ずするようにしましょう。特に教科書をよく読むようにしましょう。
- 興味を持って、授業に取り組むようにしましょう。

【授業】

- 週に2時間の授業があります。
- 1つの単元の授業の流れは、次のようになります。
 - ①教科書をよく読みます。
 - ②出てくる基本的用語について、その意味を確認します。
 - ③各単元の「主題」や「問い」について理解します。
 - ④ノートを用いて内容を確認します。
- ノートは、板書に加えて口頭で示された重要ポイントも記し、工夫された「自分のノート」を作りましょう。
- 統計資料や表・グラフを読み解く力を身につけるために、作業学習も行います。
- ワークブックを用いて復習を行います。
- 授業開始の1分前には着席をして、教科書・ノート等の授業準備をするように習慣づけてください。
- 常に「なぜ？」という問題意識を持ち、探求的な態度で取り組みましょう。

【家庭学習】

- 公共は「幸福、正義、公正」や「公共的な空間における基本的原理」などの見方・考え方を鍛える学問です。→普段から、テレビ・新聞記事・インターネットなどを見て、社会情勢に興味を持つことも大切です。

【定期考査】

- 教科書・ノートを読み直し、授業内容を確認しましょう。
- ワークブックを利用して模擬問題を解く練習をしましょう。
- 基本的な用語はその意味を把握し、正確に書けるように訓練しましょう。
- 特に漢字は正確に書くことを心掛けましょう。

◆評価の方法、規準

評価の方法	ア 年5回実施の定期考査では、ペーパーテストによって出題範囲における知識と資料活用の技能の習得状況、思考・判断・表現を評価します。	
	イ 課題追究学習の際のレポートを評価のための資料とします。	
	ウ 日頃の学習活動の様子や発表、討論、論述などの内容を評価のための資料とします。	
	エ 授業に対する自己評価や振り返りを記入したワークシートを参考とします。	
評価の規準	1 学期	中間考査、期末考査(①、②の観点から評価します。) 出席状況及び学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に②、③の観点から評価します。)
	2 学期	中間考査、期末考査(①、②の観点から評価します。) 出席状況及び学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に②、③の観点から評価します。)
	3 学期	学年末考査(①、②の観点から評価します。) 出席状況及び学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に②、③の観点から評価します。)